

大いちょう

令和7年2月3日
岐阜市立加納幼稚園
園長 藤井 佐由美

2024年度ソニー幼児教育支援プログラム保育実践論文 最優秀園受賞

このプログラムは、公益財団法人ソニー教育財団が、未来を生きる子どもの成長を願い、「科学する心を育てる」をテーマとした乳幼児教育支援として、2002年度に開始したプログラムです。加納幼稚園は「**最優秀園**」(全国1位)を受賞しました。去る1月25日には、東京都品川区にあるソニーグループ本社にて開催された贈呈式に出席させていただきました。

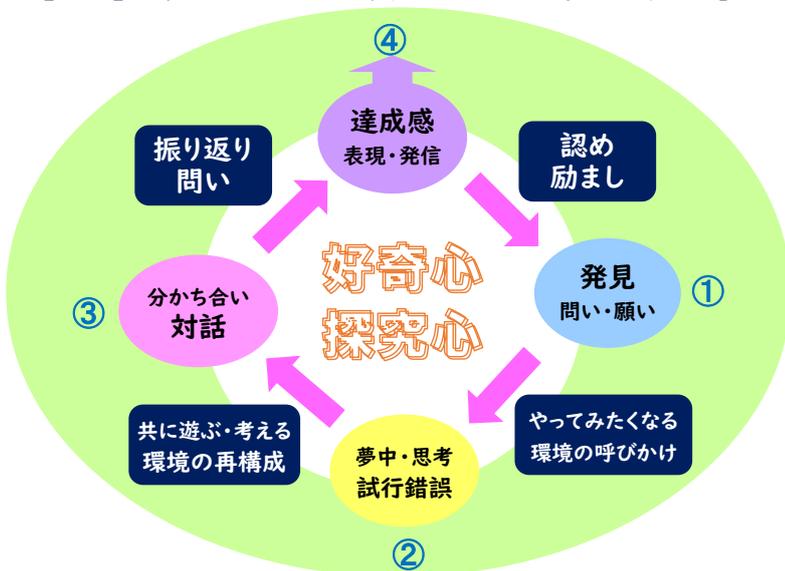
今回の論文では、次のようなことを理論立てました。(抜粋)

子どもの「科学する心」を育むプロセスを次のように考えた。

子どもは、日々の生活や遊びの中で様々な環境(「もの」や「こと」と出会い、五感を通して感じたり、気付いたりしながら、その「もの」や「こと」を遊びや生活の中に取り込むことを通して、自分の世界を広げていく。「もの」や「こと」との出会いの中で、その不思議さや面白さ、美しさ、愛おしさ等を感じ、心がときめき、「知りたい」、「やってみよう」という気持ちを膨らませながら、言葉、身振り、行動、作品等を通して表現する。子どもは、その対象と心ゆくまで関わる中で、自分なりに感じ、気付き、関わり、想像し、考えることを通して、**豊かな感性**が磨かれ、他者と体験を共有し、思いや考えを分かち合い、試行錯誤し、表現(言葉、身振り、作品等)しながら、既存の知識や経験を元に自分の世界を広げることを通して、**創造性の芽生え**が育まれる。私たちは、これらのプロセスを「**科学する心：好奇心と探究心の高まり**」と捉えた。

今回の研究では、「**科学する心：好奇心と探究心の高まり**」のプロセスを、「集団」と「個」、それぞれについて具体的事例に基づき探っていきたい。

【図1】：集団における「科学する心：好奇心と探究心」が高まるためのサイクル

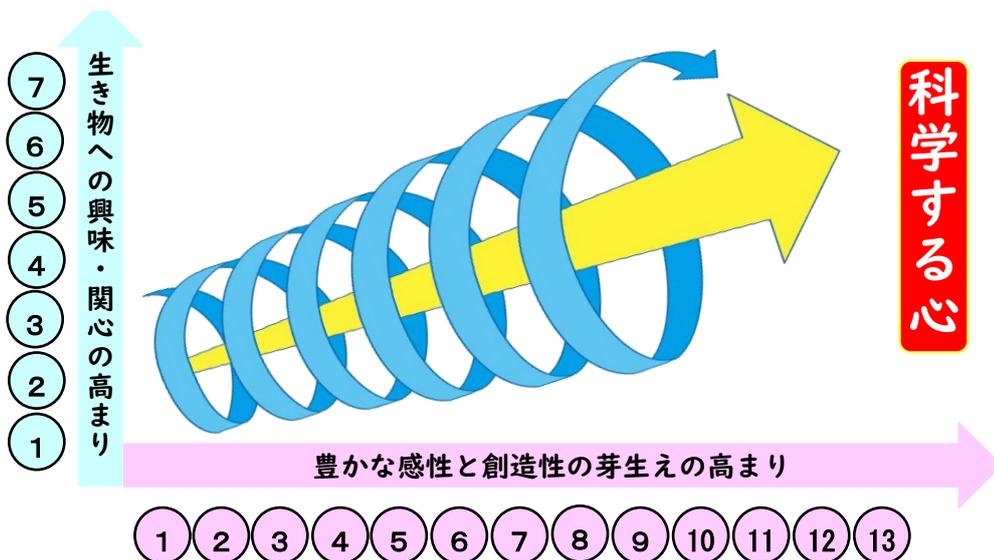


「集団」における「**科学する心：好奇心と探究心の高まり**」のサイクルを、【図1】のように捉え、次の4段階が繰り返される中で育まれるという仮説を立てた。

①「不思議」等という発見から問いや、「やってみよう」という願いが生まれる ②対象と夢中になって関わり、考え、試行錯誤する ③体験を共にしながら、考えたことや結果を基に他者と対話し、分かち合う ④振り返りの中で、達成感を味わい、分かったことや工夫したこと、新たな発見等を伝え合ったり、表現し発信したりする。

また、「個」における「科学する心:好奇心と探究心の高まり」のプロセスを、【図2】のように捉え、本研究の実践事例にある「生き物への興味・関心の高まり」と「豊かな感性と創造性の芽生えの高まり」が絡み合いながら、螺旋状に行きつ戻りつする中で繰り返されることにより「科学する心:好奇心と探究心の高まり」が育まれると仮説を立てた。※縦軸と横軸の道筋を【図3】に示した。

【図2】:「個」における「科学する心:好奇心と探究心の高まり」



【図3】:「個」における「科学する心:好奇心と探究心の高まり」(縦軸・横軸の道筋)

横軸：豊かな感性と創造性の芽生えの高まり	
①	「好き」・「やりたい」という気持ちをもつ
②	「どうして？」と疑問や課題をもととする
③	「どうしたら？」と自分なりに想像し、解決方法を考えようとする
④	自分なりに感じたり、考えたりしたことを言葉や行動で表そうとする
⑤	経験や知識を基に、推測し、見通し（仮説）をもととする・言葉や行動で表現しようとする
⑥	疑問に思ったことや考えたことを図鑑やインターネット等で調べたり聞いたりしようとする
⑦	考えたり工夫したりしながら、形や作品等で表そうとする
⑧	考えたことを基に、確かめようとする・言葉や行動で表現しようとする
⑨	うまくいかないときの原因を考え、経験や知識を基に、創意工夫しながら試行錯誤しようとする
⑩	グループやクラスの「サークルタイム」の中で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを表現したりしようとし、分かち合おうとする
⑪	やったことを振り返り、結びつけたり、理解したりしようとする
⑫	周りの友達の意見や行動に刺激されて、自分もやってみようとしたり、新しい考えをもったりする
⑬	発見や学びを表現し、伝えようとしたり、展示しようとしたりする

縦軸：生き物への興味・関心の高まり	
①	五感（触る・匂う・じっくり見る・聞く・味わう）を通して感じる・気付く
②	観察したり、比較したりして、同じや違いを見つける
③	名称を調べたり、考えたり、表現したりして知ること、愛着が芽生える
④	生態を知ろうとしたり、世話をしたりする
⑤	かわいそうに思ったり、愛情をもって助けようとしたりする
⑥	生き物の変化や生態を知ること、生き物を身近に感じ、自分たちの生活と重ねる
⑦	生き物に対し、命あるものとして共に生きる喜びを感じ、生き物を大切にしようとする

※この理論のもとに、チョウの一生に心ときめかせながら試行錯誤する子どもたちの奮闘記をまとめました。

「2024年度 ソニー幼児教育支援プログラム」審査講評において、以下のように認めていただきました。

貴園は、子どもの豊かな感性が磨かれ、創造性の芽生えが育まれるプロセスを「科学する心:好奇心と探究心の高まり」とし、集団と個の観点から分析的に主題に迫る試みをされました。幼児教育の特徴を改めて捉えることにもつながる興味深い論文です。特に、好奇心と探究心の高まりを、「感性と創造性の芽生え」と「興味関心の高まり」という2軸で段階的に整理し、独自の表現と記録と対応させながらまとめた点もユニークであり、高く評価しました。

事例では、ナミアゲハチョウの一生を追いながら、産卵に出会い、感動し、それをタブレットで撮影して共有するなど、子どもたちの関心を広げ、興味を維持し、家庭ともつながる機会にもなっていました。保育者が子どもの言葉を丁寧に聴き、いとおしく感じながら関わっていることへの良さも感じられます。子どもたちが幼虫の共食いの場面を見て「僕が友達を食べること(友食い)」と表現したり、蝶が死んでしまった際に蝶にとって住みやすい環境を作りたいと対話したりするなど、現実と出会い、「自然への畏敬の念」や「相手にとって住みやすい状況」を考えていくプロセスも大変重要です。「知識先行」となりがちな子どもたちが“その通りでない”ことに会う場面では、私たち大人が意識的に大切にしなければならないことだと考えさせられます。園を訪問して行われる現地調査の報告から、保育者の環境作りや援助に支えられながら、個の「やりたいこと」という目的意識(自己課題)が集団の「やりたい・知りたい」という目的意識(集団課題)への変化している確証が得られました。このことは、多くの保育関係者の参考となります。今後も「科学する心」の本質をとらえる研究を重ね、その成果を広く他園へも発信いただけることを期待します。



というわけで、令和7年度は、加納幼稚園の実践を全国に向けて発表いたします。保護者の方には、改めてご協力をお願いすることになりますが、どうぞ理解のほどよろしく願いいたします。本園の自慢の子どもたちの遊びの様子を、全国に向けてアピールしたいと思っております。

※2月3日:教育長さんが、祝福の意をお伝えに、加納幼稚園にお越しくださいました。

寒さに負けず元気に遊ぶ子どもたちです！！



1月16日(木)に、岐阜東幼稚園とのドッジボール対決を実施しました。この活動は、私が令和3年度に岐阜東幼稚園の園長になったとき、単学級の年長児を見て、和気あいあいとして穏やかな様子が良さでもあり、でも多様な子どもと関わり合う機会が少なくほんの少し打たれ弱さも感じ、他園の子どもとの関わり合うことで育つものがあると考え提案し、始めたことです。そして、発達に適した

適度抵抗を体験する中で、子どもたちの中に、「一つの目的に向かってやり遂げる」

「ネガティブな感情も味わい、勝敗だけではない様々な価値を感じる」という経験ができるよと感じました。これは、加納幼稚園の子どもにとっても同様に必要なことでした。本園の子どもたちは、日頃からクラス対抗を楽しむことができ、これ



までも様々な場面で、クラス同士で刺激し合ったり、学び合ったりする機会が多くありました。初めの頃(9月)は、負けるとすぐにやめてしまったり、負けそうになるとやる気を失くしたりする姿が多くありました。でも、クラスで話し合う中で、「どうしてやめたくなったのか？」など気持ちを尋ねると「負けると悔しい」「本当は勝ちたい」「足が遅いから本当はやりたくない」などの言葉で表現するようになりました。表現したことで、『みんな気持ちは同じ』『得意なことがそれぞれ違う』と



いうことに気付いていきました。そこで、「どうしたら勝つことができるのか」を考え、技を磨く方法と、それぞれの持ち味を生かす方法を考えるようになりました。このようにして子どもたちは、勝敗だけではない様々な価値観を身に付けてきたのです。ドッジボール大会当日には、『最後まであきらめないこと』『みんなで力を合わせること』を実証してくれましたね。これもひとえに温かい保護者の方の声援があったおかげであると思っております。いつも温かくご支援くださる保護者の方の存在が、子どもたちの心を強くしてくれています。ありがとうございました。



年少児・年中児の子どもたちも、お正月遊びを楽しみ、素早い動きでカードを取り合ったり、数字の大小を考えながら並べて遊んだりして、簡単なルールのある遊びを友達や先生と一緒に楽しんでいます。

自分たちの遊びを進める中で、困っている子どもを見つけると、心配そうに寄っていくなど、気持ちに寄り添おうとする行動も見られるようになっていきます。今まで、先生や年上の子どもに寄り添ってもらった経験が、このように生きてくると思うと、脈々と受け継がれていく思いやりの心を感じ、嬉しくなります。



他にも、自分で描いて切り取り、形作った凧を掲げて勢いよく走りまわる子どもたちの姿もあります。寒さに負けず、自ら戸外に出て行く背中を見ていると、『もうすぐ年長児』のたくましさを感じます。



雪の日にはこんなにも思い切って遊べる環境、自然がくれた最高のプレゼントを存分に生かし、体ごと楽しむ子どもたちの姿に、今も昔も変わらない人間の心の豊かさを感じます。

現在は、どのクラスも発達過程に応じた表現遊びを楽しんでおります。なり切ったり、演じたり、やり取りしたりする面白さと、遊びに必要なものを作る工程、みんなでタイミングを合わせる心地よさ、観てもらおうお客さんに喜んでほしい気持ちを形にする過程など、それぞれに奮闘中です。お楽しみに！！



《2月の保育について》

【3歳児】

- 先生や友達と一緒にいろいろなごっこ遊びを楽しむ。
- 先生や周りの友達に、言葉やしぐさで自分の思いを出して遊ぶ。

【4歳児】

- イメージを膨らませながら、自分なりに表現することを楽しむ。
- 自分の思いを出したり、相手の思いを聞いたりしながらそれに応じようとする。

【5歳児】

- クラスの共通の目的に向かって話し合い、自分なりの力を発揮し、みんなでやり遂げた満足感を味わう。
- なりたいものを調べたり描いたりしながら自分なりにこだわって創り上げる。



お知らせとお願い

○預かり保育「ちいさなおうち」について

前月の20日までのお申込みにご協力くださりましてありがとうございます。
3学期に入り、預かり保育の需要が高まり、日にちによっては既に定員を満たしている日も出てきました。先着順での受付をしておりますので、今後も早めの申請をお勧めします。

○来年度6月頃の保育参加について

毎年、保護者の方に幼稚園での子どもたちの生活や遊び、友達との関わりなどを生の目で参観していただく機会として、「半日幼稚園の先生体験：保育参加」を実施しております。その際、給食の配膳も一緒にしていただくために、割烹着（長袖付きエプロン）が必要となります。6月に必要になって購入しようとする、季節的にお店に商品がないという状況があるようですので、今のうちにご用意されることをお勧めいたします。一応、幼稚園でも貸出してはおりますが、数に限りがありますので、既に貸出済みの際はご容赦ください。

